



長崎県のミニトマト産地では裂果の発生が収量低下の要因となっています。ミニトマトの裂果は午前4～6時ごろに集中して発生しますが、厳寒期は、温風暖房機の稼働頻度が高いことから、この時間帯のハウス内相対湿度は90%未満に維持されます。一方、気温の上昇に伴い4月以降は温風暖房機の稼働頻度が低下し、この時間帯の相対湿度が90%以上になる場合が多くなります。このことから4月は厳寒期と比較して裂果が発生しやすく、この時期の裂果対

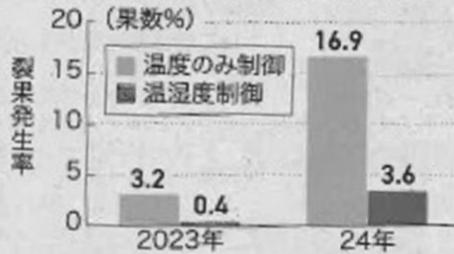
策技術の開発が求められています。そこで、午前4～6時ごろ

ミニトマト4月の裂果抑制

日の出前3時間の温湿度管理が重要

に当たる、日の出前3時間のハウス内の相対湿度が90%を下回るように、温風暖房機を稼働させる温湿度制御が裂果

図 4月の温湿度制御がミニトマトの裂果発生率に及ぼす影響



の発生に与える影響を調査しました。

その結果、4月の日の出前3時間に温度が8度以下または湿度が90%以上となる場合に加湿機を稼働させると、温度が8度以下になった時だけ加湿した場合に比べ、裂果の発生率を抑えることができました。

(長崎県農林技術開発センター 農産園芸研究部門野菜研究室 田崎里歩)